

むっみ

第69号 2023. 1



福島県土地改良団体職員連絡協議会

目次

新年のご挨拶……………	福島県土地改良団体職員連絡協議会……………	3	22年と年男……………	会津北部土地改良区……………	11
未来予想図 2023+20……………	会 長 五十嵐 賢一……………	4	10年表彰……………	安積疏水土地改良区……………	12
第46回総会……………	専務理事 菊地和明……………	5	勤続30年を迎えて……………	水土里ネット福島……………	12
退任にあたって……………	福島県土地改良団体職員連絡協議会……………	7	勤続30年表彰を受けて……………	水土里ネット福島……………	13
	前会長 菅波孝光……………		年男・年女……………		
永年勤続……………			年男を迎えての抱負……………	水土里ネット福島……………	14
最初で最後の永年勤続表彰……………	須賀川市土地改良区……………	8	年男のストマネ……………	磐城小川江筋土地改良区……………	14
駒形土地改良区 勤続20年を振り返って……………	駒形土地改良区……………	8	新年の抱負……………	会津北部土地改良区……………	14
「長い間、お世話になりました」……………	磐城小川江筋土地改良区……………	9	年男の雑感……………	水土里ネット福島……………	15
勤続20年を迎えて……………	会津大川土地改良区……………	10			
感謝の気持ち……………	安積疏水土地改良区……………	10	新会員のみなさんより……………		
10年勤続表彰を受けて……………	安積疏水土地改良区……………	11	『土地改良区職員として』……………	請戸川土地改良区……………	16
縁に恵まれて……………	水土里ネット福島……………	11	「よろしく願いいたします」……………	水土里ネット福島……………	16
	橋本美恵子……………		よろしくお願いします……………	郡山市東部土地改良区……………	17
	八木沼 紘平……………				
	安中雅伸……………				
	大竹 伸明……………				
	小山田 美保子……………				
	佐藤 慎子……………				
	松川 早苗……………				
	矢吹 英信……………				
	立川 基毅……………				
	佐藤 優祐……………				
	関根 誠……………				
	尾形 和子……………				
	吉永 典子……………				
	鈴木 秀優……………				
	佐藤 憲洋……………				
	菅野 恵吾……………				
	西牧 佑馬……………				

土地改良区に勤務して……………江花川沿岸土地改良区……………17

大森 英夫……………18

よろしくお願いいたします。……………水土里ネット福島……………18

菅野 晴日……………18

よろしくお願い致します……………水土里ネット福島……………18

藤井 弥……………19

よろしくお願いいたします。……………梁川町土地改良区……………19

佐藤 宏行……………20

「土地改良区の職員となって」……………会津若松市湊土地改良区……………20

渡部 恵美子……………20

よろしく申し上げます……………磐城小川江筋土地改良区……………21

長瀬 麻裕香……………21

よろしくお願い致します……………水土里ネット福島……………21

伊藤 健助……………21

「志は下流から上流へ向かって」……………安積疏水土地改良区……………22

渡邊 裕也……………22

日進月歩……………安積疏水土地改良区……………23

佐藤 史乃……………23

よろしくお願い致します。……………会津宮川土地改良区……………23

秋山 果穂……………23

皆様初めまして……………会津宮川土地改良区……………24

邊見 知弘……………24

よろしくお願いいたします……………会津宮川土地改良区……………24

芥川 祐太朗……………24

「元気に頑張ります」……………水土里ネット福島……………25

富樫 さくら……………25

よろしく申し上げます……………水土里ネット福島……………25

鈴木 友理子……………25

今、伝えたいこと……………26

「資格の話」……………伊達西根堰土地改良区……………26

石川 博利……………27

SNSを活用した情報発信について……………愛谷堰土地改良区……………27

事務局長 菅 波 孝 光……………27

新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 五十嵐 賢一

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、令和五年の新春を迎えることができたことを心よりお祝い申し上げます。さらに、旧年中は本協議会の事業運営に際し、特段のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

また、昨年三月には福島県沖地震が発生し、浜通りでは最大震度六強を観測し、復興半ばにして甚大な被害が及びました。更に八月には、会津地方を豪雨が襲い、鉄橋が崩落する等農業用施設にも甚大な被害をもたらしました。被害に遭われた皆様には、お見舞いを申し上げ、一日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、私はこの度の第四十六回総会におきまして、菅波孝光前会長の後任として会長に選任されました。総会が書面表決での開催でしたので、就任の挨拶が出来ずにいました。この場をお借りして、一言申し上げます。

本協議会の会長という職責の重さを、改めて痛感しているところであり、副会長をはじめ、役員の皆様、会員の皆様と共に良い本会の運営に努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻を宜しくお願いいたします。

本協議会の令和四年度総会は、コロナ禍の影響に配慮し、三年連続で開催することが出来ませんでした。菅波前会長の手腕を発揮する場を設けることができなく、二年間の任期が過ぎてしまったこと残念でなりません。「俺は、幻の会長になる。」菅波前会長の言葉が、脳裏に強く残っています。

令和五年度の活動については、私個人の考えですが、コロナ感染に配慮しつつ、総会及び研修会を日帰りで開催する等、役員会で前向きに検討したいと考えています。なお、会員皆様のアンケート回答からのご意見に真摯にお答えできる様、役員会で検討いたします。

さて、この機関紙「むつみ」の原稿執筆に頭を抱えている頃、日本漢字能力検定協会による「今年の漢字」が話題となり、一年の世相を表す漢字は「戦」と発表されました。

私が思う「戦」は、記憶に新しいサッカーワールドカップ2022での日本代表の「戦」もありますが、県内では、只見町に関するJ.R.只見線十一年ぶりの全線運転再開や昨年八月の会津地方豪雨による災害との「戦」、県立只見高校野球部の春の甲子園初出場、そして夏の甲子園での聖光学院高校初のベスト4、念願だった東北地方への優勝旗をもたらした仙台育英高校の甲子園での「戦」とあり、コロナ禍やウクライナ情勢等で冷めた社会に、「熱い戦いと感動」を与えてもらいました。本当に、ありがとうございます。

最後になりますが、本紙「むつみ」に原稿執筆を依頼され、ご協力を頂いた皆様に深く感謝申し上げますと共に、本年が会員の皆様にとりまして、よりよい年となりますようご祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。

未来予想図 2023+20



福島県土地改良事業団体連合会

専務理事 菊地和明



皆様、新年おめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

どこかで聞いたようなタイトルですが、年頭ですので、皆さんと少し先の未来を思い描きます。従来の未来は三十年後や五十年後が一般的でしたが、今や社会変化は急激で、二十年後でも大きな変化が想定されています。因みに、Z世代は五十六年が一昔だそうです。

○AIは最愛の友となる

既に現段階でも、手元のスマホ、乗り物、生活情報やインターネット等、私たちの生活の多くの場面に存在するAIは、あらゆる場面で生活の中で役割を果たすことになります。昨年十一月に八十億人を超えた世界人口が二十年后に百億人に迫る一方、我が国の人口は約一億人まで減少しながら超高齢化に向けて突き進みます。そこには多くの外国人助っ人とともに、様々なロボットをはじめとするAIが欠かせない存在となり、最愛の友となることは間違いなさそうです。

○つまり、多くのものがほぼ自動！

そのAI活躍の象徴が自動運転です。道路交通法と航空法が統合し、自動運転車は空陸両用となります。スマホはボタンやブレスレットのように小さくなり、街中どこでも情報が得られます。全ての乗り物、学校や職場、役所や病院、ホテル、農作業の多くが顔認証のもと自動となり、お金を実際に使う人はほぼいなくなります。当然、運転誤操作の暴走は

無く、こだわる人のみがこだわる場面だけ自ら操作します。

○バーチャル（仮想）と現実の境界線が無い？

仕事、観光、スポーツ（観戦）など生活のあらゆる場面にバーチャル画像・空間が混在し、現実と融合します。宇宙旅行にもエレベーターで行けるようになりますが、チケットを取れない友人はバーチャルと一緒に旅行を楽しむことができるため、価値観は劇的に変わります。

○世代や性差などの区別はどこで使うの？

現在の土地改良では女性参画が大きなテーマですが、二十年后は区別しないことが基本です。区別はビジネスデータ（商情情報等）として使いますので、町の風景や仕事、家庭も大きく変化します。家事でロボットに任せないものはそれぞれの家庭の事情により分担します。年齢や性別は本人が必要なきのみ使用するイメージです。

○何と、大都市以外は皆 農村となる!?

リモートが基本となり、同じ場所に一堂に会する機会は極めて限定されます。居住地と仕事場との距離は論点にならず、人口集中の災害リスク、高齢激化などから農村に居住する人口が安定的に発生します。出生数が減り続け国全体の人口が激減する中、観光や商的要素でわずかに生き残る大都市と、中小都市が周辺農村を吸収した中核農村の二者だけが存在するため、居住地を限定せず、多くの都市住民が農村の運営に参与する仕組みが一般的となります。住民税等の考え方も、勿論、土地改良区の組合員の構成も大きく変わることになるのです。

この未来予想はいかがですか？激しすぎですか？ところが、さらに劇的な変化を予想する学者もいます。我々もいつまでもコロナで騒いでいると、変化に後れをとってしまいますね。

くれぐれもご自愛いただきつつ、本年が皆様にとって幸多き一年となることをお祈り申し上げます。

第46回総会

第46回総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面表決の方法により行われました。

【提出議案】

議案第1号

令和3年度事業報告の承認について
議案第2号

令和3年度収支決算の承認について
議案第3号

議案第3号

令和4年度会費・協賛金について
議案第4号

令和4年度補正予算(案)について
議案第5号

令和5年度会費・協賛金の額及徴収方法(案)について
議案第6号

議案第6号

令和5年度事業計画(案)について
議案第7号

議案第7号

令和5年度収支予算(案)について
議案第8号

議案第8号

役員の改選について

提出された全ての議案については、賛成多数により承認されました。

なお、議案第4号から議案第7号においては、機関紙「むつみ」の発行方法やその費用の見直し、研修の支部単位による開催などの意見が寄せられましたので、今後検討して参ります。

また、役員の改選については、下表のとおり選任されました。

通常総会が書面表決により実施されたため、表彰式が今回も中止となりました。永年勤続者表彰の皆様へは賞状及び記念品をお届けいたしました。受賞者の皆様の御健勝と今後益々の御活躍をお祈りいたします。



福島県土地改良団体職員連絡協議会役員名簿

(令和4年度・令和5年度)

役職	氏名	所属	方部
会長	五十嵐 賢一	会津若松市湊土地改良区	会津
副会長	石川 博利	伊達西根堰土地改良区	県北
副会長	植松 宏行	南相馬土地改良区	相双
副会長	三浦 宏幸	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
幹事	菅野 龍太郎	安達疏水土地改良区	県北
幹事	根本 和俊	安積疏水土地改良区	県中
幹事	渡邊 陽介	郡山市東部土地改良区	県中
幹事	吉田 昌照	矢吹土地改良区	県南
幹事	武藤 謙治	白河市土地改良区	県南
幹事	佐藤 慎子	駒形土地改良区	会津
幹事	諏訪 美彦	会津宮川土地改良区	会津
幹事	後藤 翔	高郷土地改良区	会津
幹事	山内 翔	只見町土地改良区	南会津
幹事	村井 裕次	八沢干拓土地改良区	相双
幹事	矢吹 英信	磐城小川江筋土地改良区	いわき
幹事	石幡 佳信	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
幹事	菊田 克彦	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
代表監査員	渡邊 浩彰	大玉土地改良区	中通り
監査員	遠藤 勇樹	猪苗代町土地改良区	会津
監査員	松浦 勝男	いわき市勿来地区土地改良区兼井上用水堰土地改良区	浜通り

永年勤続者表彰

30年勤続

戸ノ口堰土地改良区

磐城小川江筋土地改良区

福島県土地改良事業団体連合会

福島県土地改良事業団体連合会

福島県土地改良事業団体連合会

高橋 千恵

小山田 美保子

吉 永 典子

尾 形 和子

橋 本 美恵子

20年勤続

安積疏水土地改良区

穴堰水系土地改良区

会津北部土地改良区

駒形土地改良区

会津大川土地改良区

市 川 賢一

鈴 木 麗子

鈴 木 秀優

佐 藤 慎子

大 竹 伸明

10年勤続

安積疏水土地改良区

安積疏水土地改良区

安積疏水土地改良区

須賀川市土地改良区

富岡町土地改良区

八木沼 紘平

佐 藤 憲洋

安 中 雅伸

松 川 早苗

鈴 木 大輔



退任にあたって

福島県土地改良団体職員連絡協議会

前会長 菅 波 孝 光

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、令和5年のよき新春を迎えたこととお慶び申し上げます。

令和3年度に任期満了に伴い退任された鈴木前会長の後任として、会長職を仰せつかり副会長をはじめ、役員の皆様、会員の皆様、そして、事務局の皆様の一方ならぬご支援、ご鞭撻を頂き2年間、誠に力不足でございましたが無事に務めることができました。

皆様に、衷心より厚く感謝を申し上げます。

さて、昨年の総会にあたって開きました幹事会では、機関紙「むつみ」の寄稿が減ってきているので、どうすれば増やせるのか、議論しております。

職員における掲載は、これからも新会員、年男年女、永年勤続表彰受賞者で十分であると思いますが、その方々からも寄稿されにくい環境が存在するとすれば改善していかなければならないと存じます。

新会員、年男年女、永年勤続表彰受賞者であってもテーマは自由です。

望むことは、節目として、何かを発信していただきたい。その一点です。

土地改良事業、業務に関係が薄い趣味や家族の事でもよいと思います。会員の皆様と情報共有したいと思うことを、是非、お寄せください。

今回、私と石川副会長と業務に関係する内容でございますが、別頁に掲載しましたので、お時間がある時に、一読頂ければ幸いです。

また、昨年の総会の書面表決にあたって、書面で色々なご意見を頂きましたが、役員が改選となりましたので、新会長に引き継がせて頂きました。

その中で、この機関紙「むつみ」を必ずしも全会員分、印刷しないでよいのではないかと。というご意見がありました。私は、とりあえず、所属団体又は部署分として、印刷部数を減らすことは検討の余地があると思います。製本印刷費は、それほど削減にならないと思いますが、無駄に印刷しないことが大事だと思います。土地連のホームページからダウンロード出来ますので、それも有効的に活用出来ると存じます。

さて、コロナ禍で、会長として、一度も皆様と顔を合わすことなく退任することになり、皆様に申し訳なく大変に残念です。

この職連協という組織は、団体の垣根を越えた情報収集が図られることが一番の目的だと私は思います。県内にも色々な土地改良区があり、そして、多才な職員がおられます。自分がやりたい仕事をどうすれば実現できるのか。これからの土地改良区に求められることは何なのか。限られた時間の中で何を優先すべきなのか。その答えを導き出せる環境が職連協の総会情報交換会にはあります。

近い将来、職連協の総会情報交換会が開催されましたら、是非、ご参加ください。

最後に、本年が会員の皆様にとりまして、より良い年となりますように、そして、福島県の土地改良事業にとって飛躍の年となりますように、ご祈念を申し上げ、退任の挨拶といたします。

本当にありがとうございました。

永年勤続

最初で最後の永年勤続表彰

須賀川市土地改良区
松川早苗

まず初めに10年永年勤続表彰を頂き、これも多くの方々のご協力があってこそだと感謝申し上げます。

さて、「むつみ」の原稿執筆は新会員になった時以来二度目となりますが、ついこの前書いたような気もするし、遙か遠い日のような気もするなと思いつつも、我が娘も学生から社会人となり、自分自身も定年まであと〇年と考えると、いつの間にか歳月は流れていたのだと改めて実感しております。

私は当土地改良区で会計を担当しています。入った当初と比べて大きな変化は、土地改良法が改正さ

れ、単式簿記から複式簿記に移行したことです。否応なくそれに対応しなければならず、頭も固くなり、新しいことへの適応能力も低下しつつある50代にとっては一大イベントでした。できることなら自分の定年後に引き延ばせたらいいのに……と弱気になったりもしましたが、それもようやく軌道に乗りだし、少し肩の荷が軽くなったと思いきや、電子帳簿保存法やらインボイス制度やら、またしても聞きなれないワードが出現し、??が増えるとともに新たな頭痛の種が増えてしまいました。

鴨長明の「方丈記」の一節

「ゆく川の流れば絶えずして

しかももとの水にあらず」

これは、すべてのものは移ろい変わりゆくものだと言うことのようにです。

昭和生まれのアナログ世代には現在のデジタル化の流れは、ついにくものに精いっぱい息切れしそうです。

私の勤続20年はありませんが土地改良区や農業の10年後の未来、さ

らには世界の未来はどのように変化しているのでしょうか。

昔なら不治の病と言われたものが医学の進歩で克服されたものもあれば、新型のウイルスに世界中が翻弄され、いまだに終息とは言えず、東日本大震災後も水害や地震等の災害は絶えることはありません。けれども、私達はその流れの中で笑ったり、泣いたりしながらも負けずに生きていかなければならず、そのためにはなにより健康が不可欠です。

私の周囲でジムに通い体力づくりに励む人が増え、私も見習いたいと思いつつも、まだ実現には至っていませんが、自分が今でできることから始め、ステップアップしていけたらと思います。

「元気があれば何でもできる！」

10年後さらに10年後と新しい景色を見続けるためにも。

駒形土地改良区 勤続20年を振り返って

駒形土地改良区
佐藤慎子

「一寸の光陰軽んずべからず」という言葉があります。

時が過ぎるのは早いので、少しの時間もおろそかにせず、時を惜しんで励みましようという意味です。この年になると、しみじみと時間の大事さが感じられます。

私の本区での20年は、一人職員体制という事もあり、毎日が忙しく、勤務したその年から、県営かんがい排水事業に着手し、まだその事業が竣工していないうちに、勤続5年目に県営基盤整備事業50ヘクタールが採択されました。そして、勤続10年目で県営基盤整備事業123ヘクタールが採択されました。そして、勤続15年目で県営基盤整備事業138ヘクタールが採択されました。勤

続中、ずっと、二つの事業が実施されており、私の職員としての有給休暇を年に2、3日しか取得できない事が普通となっていました。自分では我武者羅に仕事に励んだと思っております。やっと、来年で基盤整備事業が竣工します。少しは心と時間に余裕を持てるかなと思っておりましたが、会計事務の複式簿記導入や、事業完了後施設の維持管理問題、近年の災害問題等が山積みになっております。

自分としては、忙しいことは有難いことと思いい、日々精進して参りたいと考えております。



「長い間、お世話になりました」

磐城小川江筋土地改良区
小山田 美保子

改良区にお世話になってから30年が過ぎてしまいました。我が事務所だけではなく、市内改良区職員でも古参のばあです。

相変わらず、組合員さんからおいしい作物や米等を分けていただき、たっぷりの栄養を取り入れてがんばっています。

30年勤務している間には、いろいろありました。夫の両親、私の両親も他界し、仲良しだった夫の祖母も101歳で大往生し看取りました。その代わりに、三男が結婚して可愛いお嫁さんと2人の孫とも出会えました。ちなみに長男、次男は、未だ独身です。(笑)

特に令和4年は忙しい年でした。昨年末に健康診断で初めて要精密検査の指示を受けていろいろな検査を

受けました。ドキドキと不安の結果待ちでしたが、持って生まれた丈夫さが幸いし経過観察との診断に安堵しました。入れ違いに夫も健康診断

で要精密検査の指示を受けて手術となりましたが、早期発見のため、術後経過も良く、職場復帰できました。

60歳の太台を過ぎると、いろいろ不具合が出てくるものです。夫と笑いながら「思ったより私達仲良しで、同じタイミングで心も体も悲鳴を上げるんだね。」と話しています。

そんなことが重なり、考え方も「無理せず楽しく頑張ろう」に変わりました。今までの責任感優先の日々ではなく、穏やかでゆったりとした日々を送ろうと切り替えています。家もリフォームし住みやすいようにしました。一人で頑張って処理していた諸々の行事も、借りれる手は、借りることにしました。その代わり、気持ちを通じ合える人には感謝してお返しをしていくようにしたいと思っています。逆に、どんなに一生懸命努力しても理解してもらえない人とは、我慢せずに距離を置き、諦めて、自分のストレスを溜めないようにしたいと思っています。最善を尽くすためには努力することが当たり前だと思っていた自分を少

し甘えさせ、穏やかにゆとりを持つた日々を過ごすようにしたいと思っています。

「長い間、お世話になりました」という気持ちでしたが、幸いにも、後を任せられる後輩が入ってきたのです。毎日笑い合いながら、楽しく業務もすっかり引き継いでいます。あとどれぐらい頑張れるか、体と心と相談しながら、もう少し頑張りたいと思っています。なので、「もう少しの間、引き続き、宜しくお願いします。」という気持ちです。



勤続20年を迎えて

会津大川土地改良区
大 竹 伸 明



この度は、永年勤続の表彰を頂きまして誠に有難うございます。

平成14年4月に採用頂き土地改良業務に従事してから早20年が経ちました。ここまでやってこられたのは仕事に関わる方々に支えて頂いたおかげだと思っております。なかでも先輩方にはご指導頂く中で、温かい目で見守りながら的確な助言と助力を頂き感謝の言葉しかありません。今では立場が変わり、受けてきたご恩を後輩に繋いでいけるよう日々の業務に励んでおります。

20年前から比較してまず思うことは当改良区施設の老朽化が顕著であることです。ほ場整備から早いところでは4、50年が経過しており地区か

らの要望が絶えない状態です。現在、会津大川土地改良区管内では会津南部地区国営かんがい排水事業が令和6年事業完了に向けて進められております。また、水利施設等保全高度化事業も事業着工となり、実施設計業務が進められております。

現在、コロナ禍で米価は上がらないにもかかわらず円安の影響もあり資材や肥料等が高騰し農業情勢は非常に厳しい局面に立たされています。そんな状況でも施設の老朽化は進んでおり、施設が壊れれば最悪の事態も考えられます。組合員の方々に安定した水の供給をするためには老朽化した施設の更新、もしくは長寿命化が必要になってきます。農業情勢が厳しい中で受益者負担の問題はありますが、いかに組合員の負担を軽減していけるかを念頭に置きながら今後も施設の維持管理に努めていく所存であります。

施設もそうですが20年経てば自身の身体も老朽化しております、それに関しては何も対策を講じていないので機能診断（健康診断）をもとに健康に留意していきたいと思っております。新型コロナウイルスに関しても新たな変異株により終息の目途が立ちませんが行動制限は緩和され

てきています。早く元の生活に戻れることと皆様の益々のご健勝を祈願いたしまして、結びとします。

感謝の気持ち

安積疏水土地改良区
安 中 雅 伸

新年明けましておめでとうござい
ます。

昨年は10年の永年勤続表彰を頂き、時の流れの速さを感じるとともに、新人の時に寄稿させてもらった「むつみ」を読み返し、改めて働き始めた頃の謙虚な気持ちを思い出していました。勤続10年を迎えることが出来たのは理事長、役員の皆様、総代、当職員、組合員の皆様、関係機関の方々、そして家族のおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

現在、事業部工務課に属し、漏水工事を中心に水路構造物の補修・改修を行っているのですが、現地を測

量設計していると当時の技術の高さであったり、緻密さに関心、勉強させられることが多く、それら構造物であったり技術を、後の世代に引き継いでいく過程の中で自分が少しでも力になれば良いなと日々業務にあたっています。

ここ数年の新型コロナウイルス感染や物価高、ロシアのウクライナ侵攻による資材調達難等、業務自体の調整の方で時間を取られることが多く又、色々な制限が掛かる中、会員皆様との情報交換等の交流の場面が少ないので、それらが落ち着き再び皆様と交流できる機会がきましたら温かいご指導を賜ればと思います。



10年勤続表彰を受けて

安積疏水土地改良区
八木 沼 紘 平

この度は、10年勤続表彰をいただきありがとうございます。

「10年」と言葉にすると人生の何割かを占める大変長い期間のように思いますが、いざ振り返ってみると、瞬く間に過ぎ去ったように感じます。

私は平成24年から土地改良区職員となり、工務課4年、財政課4年、水利課3年目という具合に課を転々としながら土地改良区の業務に携わってきました。その中でも思い出に残っている業務が2つあります。

まず1つ目が、私が職員になって最初に行った業務です。内容は前年度に行った工事書類の綴方でした。この時は東日本大震災の次の年だったので、指導していただく諸先輩方も震災の事後処理と通水に向けた補

修工事の忙しきで指導することができないということに任された業務でした。最初はすぐに終わる作業だと思いましたが、実際に作業を始めてみるとその件数の多さに驚きました。分厚い綴りを何個も作りながら、自分もこんなにたくさんさんの書類を作っていくようになるのかと不安も覚えました。実際は、前年の業務が通年の10倍以上であった為の書類量でしたので不安に思ったほどではなかったです。今振り返ってみると、当時はあの人数でよくあれだけの業務を乗り越えられたなあと、諸先輩方の組合員の皆様に安心して農業に取り組んでもらうための頑張りに、とても感心させられました。

2つ目は、財政課にいる時、受益地外に住んでいる為受け持ちの役員さんがいない滞納者に私の方で交渉したことです。最初は、疏水だと分かるかと玄関から出るよう言っていた滞納者が、玄関の外から説明をしていた私を玄関に入れ、家にあげて、最後には手紙で支払いをしたいと連絡をいただきました。この滞納者には先輩方も手を焼いていたので連絡をいただいたと知った時はすぐく達成感があったのを覚えています。

10年を振り返ってみても先にあげ

た事みたいな小さな思い出しか出てきませんが、その小さな出来事が積み重なって次の10年へとつながっていくのだと思いますので、今後とも会員の皆様にはご指導、またご協力のほどよろしくお願いいたします。

縁に恵まれて

水士里ネット福島
橋 本 美恵子

この度は永年勤続表彰をありがとうございます。縁あって20代より土地連にお世話になっておりますが、自身の節目には常々思うことがあります。その時々年齢には諸先輩方のような「大人」にはなれていないと。仕事への姿勢や伺うお話しからご家庭での様子など、たくさん諸先輩方には全く敵いません。ですが、ウサギも居るしカメも居るように、僅かずつでも自分なりに歩みを進めることでできればと思っております。

す。皆様のお力添えも遠慮無くお借りしつつ、もう少しだけ宜しくお願い致します。

22年と年男

会津北部土地改良区
鈴 木 秀 優

会員のみなさま、大変ご無沙汰しております。

令和4年度で土地改良区に勤務して22年目、そして令和5年は年男です。

この度、勤続表彰を賜りましたこと、心から御礼を申し上げます。

会員の皆様、諸先輩方には、土地改良事業はもとより、社会人としての心構えなど、ご指導を頂戴し、また、温かく見守っていただきました。近年は、新型コロナウイルスの影響で、皆様と直接顔を合わせる機会が少なく、意見交換や情報共有が難しく、残念でなりません。

当時、土地改良事業最盛期、激動の時代を駆け抜けた経験豊かな先輩方が、これからの農業、土地改良事業、組織のあり方について意見を交わされていたのが印象的でした。

そんな私は、先輩方や会員の皆様に刺激を受けながら、事業管理分野を17年、経営体育成基盤整備、担い手集積、国営営かん排水、ダム頭首工の施設管理などに携わりました。元号が令和に変わると同時に、総務会計の担当として、複式簿記導入や賦課金の徴収など、事業の推進と組織を支える事務の大切さを経験しました。

そして、いつの間にか、先輩方が退職され、職場内の最年長者となっていました。

最前線で組合員と向き合い、自由に行動できたところと比較して、仕事を委ね、全体の調整役となつて物事を進めることの難しさを痛感し、一方で、問題に直面したとき、委ねられた彼、彼女が精一杯努力し、道筋が見えたときに見せてくれる笑顔が何よりのご褒美です。

皆様にお目にかかれる時に、彼、彼女に負けない笑顔ができるよう励みますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

10年表彰

安積疏水土地改良区
佐藤 憲 洋

皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年は、勤続10年の表彰を頂き誠にありがとうございます。今まで大過なく勤めさせていただけましたのもひとえに土地改良区職員皆様はじめ多くの方々のお力添えがあったからこそです。

この10年を振り返りますと、1年目から3年目までは総務課に配属され、何も分からない中、土地改良区について色々な事を学ばせて頂きました。特に初年度は、安積疏水通水130周年記念式典や総代選挙等の大きな行事を経験し、改めて安積疏水の歴史や地元に対する重要性を認識しました。

4年目からは水利課に移動し、水の配水作業を通じてより多くの組合員の皆様と接する機会を得て、改め

て多くの皆様に支えられていると実感しました。特に令和元年台風19号で土地改良区の施設が甚大な被害にあった際、多くの方々の協力で困難を乗り越えた事は、これからの職員生活において大きな出来事になりました。

8年目から現在に至るまで財政課で賦課金の集金等を行っており、農業担い手不足、米価の下落など農家の方々を取り巻く厳しい現状を伺う事があります。そのような意見をしっかりと聞き、組合員の皆様に寄り添う職員でありたいと思っております。

まだまだ未熟者ですが、これから土地改良区職員として農業発展のために尽力して参りたいと思います。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻の程を宜しくお願い致します。

勤続30年を迎えて

水土里ネット福島
尾形 和 子

新年明けましておめでとうございます。昨年、勤続30周年という表彰をいただきました。ありがとうございました。

土地連に勤務してから臨時職員の時から数えると、今年で40年にもなります。すごいですねー。こんなに長く勤めるとは考えてもいませんでした。30周年の記念の投稿依頼なんて、私の大の苦手な文章を書くと、罰ゲームですか。とも思いましたが、なんとなく振り返ってみました。います。

20歳で土地連に勤務した頃は、農業農村なんてまるで関わりのない世界だったので、見聞きするも全て新鮮で、出張に行くのも楽しかった事を覚えています。県内の知らないような土地に行けたこと。その地域の

方々との交流が楽しかったこと。県内の美味しいものを知れたこと。それを、知り合いに自慢げに教えてあげたこと。

今思えば、何やってんだかって感じですけどね。

課が変わって、結婚、出産子育て。楽しい事、辛い事（内容は長くなるので省略）思い返してみれば色々ありましたが、歳なのか性格なのか分からないですが全て笑い話になっているなあと思ってます。

集排課に配属の時は、えっ？何それって仕事の内容もわからずにいました。中々どうしてこれはなくちゃいけない仕事だ！と思い（なんとなく）頑張っちゃいました。

今では土地連の中での友人関係がこれからも長く続くのかなと思ってます。というか、続けて行きたいなと思います。先輩後輩全て、私が40年と言う長い年月の中で見つけた人達です。断わるって言う輩もいると思いますけれど。

もうしばらく一緒に仕事して良いよって言ってくれる後輩達が居てくれるので、あと少しだけ頑張ろうかなと思います。

最後に、今年も皆様にとって健康でよい1年になりますことをお祈り

いたします。そして今後とも宜しく
お願い致します。

勤続30年表彰を 受けて

水土里ネット福島

吉 永 典 子

定年まであと何年？と考えることがあっても、日々の忙しさに紛れ自分の過ごしてきた時を振り返ることが少ないこの時期に永年勤続表彰をいただき感謝しております。

今回、「むつみ」の原稿依頼があり、自身の30年を振り返ってみました。

平成3年に中途採用で入会し、人間関係にもなかなか馴染めず、とりあえず3年は続けてみようと思いき前向きとは言い難い決意でのスタートでした。

それが気付けば30年という月日が過ぎ、この間結婚し、仕事と家事・育児との両立に必死に奮闘していた

自分を思い出し、労ってあげたい気持ちになりました。

楽しいことばかりではありませんでしたが、今では家事・育児が一段落し、この30年の間に中々行くことの出来なかった旅行や、趣味などに費やすことのできる時間が増えました。

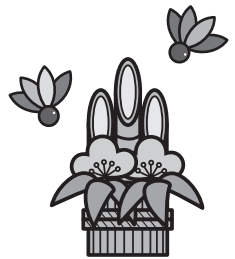
今後の人生において、この30年の経験が糧となり、残り続けていくと思います。

ありがとうございました。





年男・年女



年男を迎えての抱負

水土里ネット福島

関根 誠

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。私は平成29年4月より福島県土地改良事業団体連合会に採用され、今年で6年目となります。採用されてから今までを振り返るととても短い時間のように感じます。採用当初は18歳であり、業務内容はもちろん社会人としての立ち振る舞い方もおぼつかないところでしたが、6年目となり今では少しずつではありますが成長を感じております。

さて、今年は卯年で年男というところで、年男を迎えての抱負を生活面と業務面に分けて述べさせていただきますと思います。

まず生活面については、栄養管理をしつかりしていきたいと考えております。最近では社会人になり学生

だった頃と比べ年々代謝が下がっている事を実感しております。忙しい時期はどうしても手軽さを優先し、栄養を考える事をおろそかにしてしまいがちですが、今年はいより一層食生活を見直し、気を引き締めていきたいと思っています。

そして業務面については、何事にも積極的にチャレンジする事を目標に取り組んでいきたいと思っています。

私は今年度の人事異動で新たに施設管理課に配属となりました。新規採用されてから5年間は農村整備課員として、主に圃場整備業務に携わっており、主に今年施設管理課に配属となつてからは、主のため池の放射性物質対策業務に携わらせていただいております。

圃場整備業務とは用語等通ずるところではありますが、業務内容はまるで違うため日々新鮮で初心に戻った気持ちで働いております。

現在の業務内容は主に相双管内に既存しているため池の汚染濃度を測

定し取りまとめを行っております。

高濃度汚染が確認されたため池はその後対策工事の設計になるのですが、私はまだ設計業務に携わっていないため、いち早く業務を覚え出来ることを増やし、新たな業務に挑戦していきたいと思っております。

最後になりますが業務に邁進することはもちろん、健康あつての仕事だと思っておりますので、体調管理をしつかりとし常に万全の状態にいれるよう心がけていきたいと思っています。掲げた抱負を旨にこれからの農業発展に向けて貢献していく所存でございますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

年男のストマネ

磐城小川江筋土地改良区

矢吹 英信

今年年男で、さらに還暦を迎えます。さらに世事に疎い私は、神社のお札の取りまとめを依頼され、初めて私が厄年であることを知りました。最近では、体力の衰えも感じてきています。

私たちが管理する小川江筋も県営かんがい排水事業で3面コンクリート化されてから約60年が経ちます。高度成長期の食糧増産時代の農業を支え、私とはほぼ同じ時代を歩んでき

ました。そんな小川江筋も老朽化が進んできているため、機能診断の結果をもとに改修工事を行っております。それを考えると、私もしっかりと健康診断の結果をもとに食生活を見直し、適度な運動をすべきと思うのですが…。特に、年末年始は何かと理由をつけて飲みすぎ、食べ過ぎになってしまっています。

これから、仕事では今まで行ってきた施設維持管理に加え、ほ場整備事業が本格的に動き始めます。不規則な勤務体制になりそうですが、限られた人数で業務をこなしている中で、迷惑をかけないためにも自己管理は大切です。自己管理が出来ない人が、施設の長寿命化の計画がたてられるかと言われるそうです。自分の体は取り替えることが出来ません。これからは、自分の体のストックマネジメントも大切にしていきたいと思っています。今年も健康第一で頑張ります。

新年の抱負

会津北部土地改良区

立川 基毅

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

今年卯年となり、3回目の年男を迎える私に「むつみ」の寄稿依頼

をいただきましたので、昨年のことを振り返りながら新年の抱負について執筆させていただきます。

昨年からは土地改良区の組合員を父から引き継ぎ、日々の業務を行いますが田んぼの営農を始めました。さすがに業務の繁忙期と重なる代掻きは自分では出来ず、他の方にお願ひすることとなりましたが、それ以外の作業はなんとか行うことが出来ました。

営農の結果は、一昨年より少しは増収となりましたが他の方々と比べるとまだまだの出来でしたが、どうすれば増収となるかを考えながら楽しく取り組むことができました。また、営農を取り組むことで土地改良施設のありがたみを身染みて感じることができ、国営事業を始めとする数多くの事業に携わった諸先輩方には感謝の念に堪えません。

現在、土地改良区の組合員も私と同世代の方が少しずつ増えてきていますが、「土地改良区ってなにをしているかわからない」と言われることが多いように感じます。そういった時に説明することや情報を発信する機会がより一層重要になるのではと考えます。

今年はコロナ禍により自粛されていたイベントなども開催されることを願ひながら、少しでも私が感じたこ

とのように土地改良施設の重要性を知ってもらえるよう、日々の業務に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりますが、コロナが少しでも落ち着き、本協議会並びに会員の皆様のご多幸を願ひ結びといたします。

年男の雑感

水土里ネット福島

佐藤優祐

私がこの世に生を受けて37回目の冬がやってきた。暦の上では春であるが、私が誕生したときは雪が降っていたと聞く。年男・年女は満年齢で数えるとのことであるので、36歳になるということか。私も気がつけばアラフォーの仲間入りである。

思えば、10年前の2013年3月に臨時職員として入職し翌4月から正職員としてお世話になり、早10年が経つところである。入職時に執筆依頼を受けてから2回目の執筆となるが、当時から文才は何も進歩していないところはご容赦願ひたい。

さて、執筆依頼を受けたところでネタがなく、ネタがないとインターネットの世界にネタを求めようとするのはいいことなのか悪いことなのか。野村総合研究所(NRI)が2021年に実施した「生活者年末

ネット調査」によると、Googleなどの検索エンジンを使用した情報収集からSNSを利用した情報収集へとシフトしているらしい。

Z世代の情報処理の特徴として「SNS検索」が挙げられ、最近ではSNSの普及により「ググる」から「タぐる」そして「デイグる」(dig:掘る)つまり、情報を探す・発見する・発掘するという意味らしい)と続くらしいが、残念ながら私はこの言葉を使っている人を見たことがない。とはいえ、掘り起こしてきた情報を批判的に見ながら対峙できる情報検証能力を養成する必要があると私は思っており、仕事柄、ここ最近の税法等改正にかかる一次情報まで遡り確認をしないと気が済まないことによる業務遅延はなんとかしたいものである。

ところで、我々の世代はゆとり世代だと言われることがままあるが、半ドンを経験している身からすると、ちょうど狭間の世代であると思う。1987年生まれの人にはプレッシャー世代(1982年~1987年の間に生まれた人)でもありゆとり世代でもあるとのページにたどり着いた。下のゆとり世代と上の氷河期世代の間に位置し、様々なプレッシャーに耐えてきた世代なのではないかというところから命名され

ているらしい。私自身、さまざまなプレッシャーに耐えてきたつもりもなく、いつも何かに押しつぶされそうなところだなんとか持ちこたえているつもりである。

また、卯年生まれの人の性格・特徴を検索してみると、

卯年生まれの人は、優しく、静かで、優雅で、警戒心が強く、素早く、巧みで、親切で、忍耐強く、非常に責任がある傾向があります。が、表面的で、頑固で、憂鬱で、過度に控えめな場合があります。卯年生まれの男性は、常に人を丁寧に優しい笑顔で扱い、信憑性と誠実さを感じさせます。困難に直面したとき、彼らは決して落胆することはありませんが、代わりに解決策を見つけるための努力に固執し続けます。これは、最終的に人からうらやましい成功を収めるでしょう。

とあり、まったくそのとおりじゃないか！と一人で勝手に大きく膝を打った。この情報が正しいかどうかは私自身では検証することが難しいため、これからも皆さまからの指導・ご鞭撻を真摯に受け、精進していきたい。

新会員のみなさんより

『土地改良区職員として』

請戸川土地改良区

佐々木大智

会員の皆様初めまして。令和4年5月より請戸川土地改良区職員となりました佐々木大智と申します。よろしくお願ひ致します。

私は、南相馬市鹿島区出身で、南相馬市内の高校を卒業するまでの18年間を南相馬市で過ごしました。高校を卒業後、都内の大学へ進学しました。

私は、はっきり言って、大学卒業後、福島県で就職することは考えていませんでした。福島県に戻るきっかけとなったのは大学の友人や知人とのふとした会話です。私が福島県出身であることを伝えると、まず最初に出てきたのが「原発」、東日本大震災の話でした。原発、震災以外で福島県について知っていることについて質問をしたことがあります。ほとんどの人が福島県のことをあまりよく知らないと言え、こんなにも福島県のことを知らない人が多いのかと、少し悲しくなりました。

この経験が、福島県の魅力を一人でも多くの人に伝えたい、福島県で就職したいという気持ちに繋がったと思います。

大学を卒業後、福島市役所、株式会社福島野球団に就職しました。福島市役所では、『生活保護』を担当する部署に配属され、生活保護業務に携わり、株式会社福島野球団では、福島レッドホープスの球団運営に携わってきました。どちらの職場も刺激的で、なかなか経験ができないようなことも多く経験でき、新鮮な毎日ではありましたが、心のどこかで『地元に戻ろうかな。』と考えていたのかもしれない。

株式会社福島野球団を退職後、職を探していた際に、ご縁があり、就職することになったのが私の地元・南相馬市に近い浪江町にある請戸川土地改良区です。

農業に関しての興味はありましたが、大学まで勉強する機会もあまりなかったため、農業に関しては無知の状態でした。土地改良区についても、就職する以前は、土地改良区という言葉は聞いたことがあるけれど、どんな仕事をする職場なのか、とんと見当がつかぬ状態でした。実際に就職してからは、ダムの管理業務、幹線水路の維持管理、ほ場整備業務等、業務の幅広さを実感し、まだまだ私には農業や土地改良事業に関しての知識・経験が不足しているなど痛感させられる毎日です。

職場の上司・先輩方に支えられ、助けられ、なんとか業務をこなしている私ですが、知らないことを知ることが出来る、自分自身の知識の幅が広がる、そんな状況をプラスに捉えながら、今後も微力ながら相双地区の復興の一助となれるよう、土地改良区の職員として精進してまいります。

最後になりますが、未熟者ゆえに迷惑をお掛けすることも多々あるかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻の

ほどよろしくお願ひ申し上げます。

「よろしくお願ひ
いたします」

水土里ネット福島

菅野 恵吾

はじめまして。令和4年4月より福島県土地改良事業団体連合会、総務企画部総務企画課に配属になりました菅野恵吾と申します。よろしくお願ひいたします。

私は高校卒業後、大学で観光学を専攻していました。観光学を専攻したきっかけは、私の地元である飯坂町の地域振興・活性化を図りたいと思ったからです。その他にも、国内外のホテルで働いてみたいと思ったのも理由の一つです。

しかし、就職活動の時期にコロナウイルスが世界で蔓延し、日本でも一時期感染者数が急激に増加したこともあり、その影響は大きく、観光業は大打撃を受けてしまい、私自身将来に対して不安を感じるようになりました。その際に両親や知人、先生などにも相談をし、日々悩みな

そんな中、地元に戻省した際に農

よろしく願いします

郡山市東部土地改良区
にしまさ
西牧 佑馬 ゆうま

家の方々と接する機会があり、改めて農業の良さ、大事さに気づき、農家の方々に携わった仕事をしてみたいと思いました。その出来事をきっかけに、ハローワークが主催する説明会や面談に何度か足を運び、本会の存在を知りました。実際に話を聞いてみると、初めて耳にする言葉や専門的な内容が多く、説明会中は理解しようとすることで精一杯でした。ですが、頂いたパンフレットやホームページなどを基に見ていくと、本会が行っている事業を大まかではありますが、少しずつ理解をしていき、興味や関心を持つようになっていきました。

これらを踏まえ、私自身今まで携わってこなかった分野ですので、業務について知識不足ですが、大学で学んだことを活かして、新たな視点から挑戦していきたいと思っています。

最後になりますが、本会に入会してから半年以上経ち、まだまだ分からないことばかりですが、上司や先輩方から教えていただいたことを徐々に身につけていき、しっかりと与えられた業務に真摯に取り組んで参りたいと思います。皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

私は、令和3年1月からお世話になっております西牧と申します。令和4年4月より正式に職員となりました。

採用当初は、土地改良区とはどのような業務をするのか分かりませんでした。仕事をしていく上でのような業務があるのかとか、私がほとんど携わってはいない業務などは話を聞くだけで難しいことばかりです。

現在担当している業務は、現在農業経営に無くてはならないかんがい用水供給のため施設の維持管理業務を行っております。毎年4月下旬頃から始まる、しろかき、田植の時期に向けて施設の点検、パイプラインの充水作業等しております。しかしながら、年々施設の老朽化が進み、正常に操作できない設備が多くなり丁寧かつ慎重な作業が求められます。今年も数件の漏水事故が発生しました。今後も組合員さんに不自由なく水の使用をしていただき、農業経営をしてもらう事が一番だと考

えております。

私の抱負は、今まで経験したことのないこと、一度経験したら二度と経験できないようなこと、壁にぶつかるとあると思います。ですが、その時は初心に戻り、自分が働き始めたばかりの頃の、緊張感やワクワク感を思い出し、楽しく仕事をしていければいいと思います。人生で一番時間を費やすのが仕事なのであればその仕事を楽しく、そしてより充実した生活を送りたいと思っており、日々学んでいくという気持ち忘れずにこれからどんどん成長していきたいと思っています。

最後になりますが、組合員の方や役員の方、そして県土地改良団体職員の皆様、今後共にご指導の程、よろしくお願い致します。

土地改良区に勤務して

江花川沿岸土地改良区
おおもり ひでお
大森 英夫

令和4年4月1日より江花川沿岸土地改良区に勤務しております。どうぞよろしく願っています。

私は、令和3年8月まで市役所に

勤務していましたが、体調を崩して退職し、約半年の療養期間を経て当改良区にお世話になっている次第です。一般的な定年退職の年齢なので、他の新会員さんが持っている「フレッシュ」さはもちろんありませんし、「柔軟な考え方」がでなくなっているのを日々感じています。

事務所のある藤沼湖は、ご存じのとおり東日本大震災で被災し、堤体が決壊したことによるダム水の流出で、犠牲になった方がた場所ですが、現在は新たな藤沼ダムが完成し、今般施設が県から市に移管され、そのダム管理所で簡易的なダム管理をしながら土地改良区の業務をしています。

私の場合、前職の職務関係や家が農家であったこともあり、土地改良区の業務については漠然と「こういう仕事をするところ」という認識はありました。しかし、実際は思い違っていたことやわからないことが多々あり、先輩職員に指導を仰ぎながら業務にあたっています。その中でも、今年度から当改良区で導入している複式簿記会計については、個人的には単式簿記の経験しかないため、勿論会計システムもそうですが、その処理方法に苦慮しているの

が現状ですので、今後も複式簿記研修会に参加したり、土地連の方などから指導していただいたりしながら、よりよい処理方法を身につけたいと思っています。

当改良区は規模的に小さく、私を含めて2名の職員体制ですが、区内農地の圃場整備事業はだいぶ前に完了しているので、そういった造成工事等はありません。ただ、軽微な改修とともに、今後各頭首工など老朽化に伴った大規模な改修が必要になってきます。

また、当地区内をみても、少子高齢化などによる農家の担い手不足から、耕作者がかなり集約されていると感じています。今のところは遊休農地が極端に拡大している感じはしていませんが、このような状況が続けばどうなっていくのか：素人ながら危機感があります。その意味でも、コロナ禍後のあり方やこういった状況に「柔軟に対応できる団体」を模索しながら、日々の業務をスムーズに処理できるよう、微力ではありますすが頑張りたいと思います。

最後になりますが、各役員を含めた組合員の皆さま、そして各土地改良区や各関係機関の皆さまには今後いろいろなとお世話になりますが、

ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

よろしくお願いいたします。

水土里ネット福島
菅野 晴日

令和4年4月から福島県土地改良事業団体連合会にてお世話になっております、菅野晴日と申します。よろしく願ひいたします。

大学では福祉学・心理学を専攻し、他者や社会との関わり方や日本の福祉に関することなどを学んでおりました。生まれ育ちは福島市で、大学は県外の大学でした。そこで出会う人たちに福島県民はいなかったため、他県の人との交流は私にとって異文化交流のようで、「こんな世界があるのか、こんな考えを持った同世代がいるのか」と多くの刺激を受けた4年間になりました。

大学の先生や友人から福島県について聞かれることが多く、自分なりに福島県について紹介したり、案内したりする機会がありました。福島県を外から見ることで、今まで気づけなかった良さを発見することが

きました。この出来事がきっかけで福島県で働き、貢献したいという就職活動の軸ができたように思います。

そんな私ですが、農作業の経験は少なく、自宅や親戚の畑で野菜の種まきや収穫、小学校の授業の一環として田植えをした程度で、農業に関する知識は無い状態で入会いたしました。入会から8ヶ月が経過し、業務で取り扱うことすべてが初めての経験で、新鮮で充実した毎日を経験しております。

県内各地に出張に行き、実際に現地を見たり、いろんな方々と一緒にお仕事をさせていただく機会が多く、農業に対して驚きの連続で非常に勉強になっております。田畑やため池、水路など農家の方々や土地改良団体の方々にとっては馴染みのあるものかもしれませんが、それらの仕組みや、利用方法などを知れば知るほど農業経験はゼロの私にとっては驚くものばかりです。以前までは何気なく見ていた田園風景ですが、今では身を乗り出して見ています。

自身の大きな課題として、農業をどのように守り残していくべきなのか、自分の業務と照らし合わせながら具体的に考えていかなければなら

ないと思っております。また、業務を通して、復興に向けてこれから営農再開へ取り組みたい地域があることを学びました。今後営農に向けた取り組みについても深く考えていきたいと思っております。

慣れないこともまだあり、至らない点は多々ありますが、一日でも早く業務を覚え、皆様の力になれるように精進して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

よろしくお願い致します

水土里ネット福島
藤井 弥

会員の皆様はじめまして。令和4年度より福島県土地改良事業団体連合会にお世話になっております、藤井弥と申します。よろしくお願い致します。

私は生まれも育ちも福島市ですが、学生時代は一時故郷を離れ、福島市と比較して住んでいる外国人が多いところに住むこととなりました。そこは住民基本台帳に登録されている市の人口の約5%が主にブラジル・東南アジア系の外国人であり、

これは福島市に住んでいる外国人比が約0・5%であるという数字を見ても違いは明らかだと言えます。私はそういった地域にある駅ビルの商業施設でアルバイトをしておりまして。日本語や英語の通じない外国人客の接客は単語すら聞いたことのないもので、対応に苦戦することも多々ありました。

大学では法学系に進み、主に人文学や行政学など地域政策に関わるものを学びました。また、大学の各キャンパスから徒歩15分程度の場所に市役所が位置していたため、市役所職員の方々が開く公開講義や交流会などに参加しておりました。しかしながら当時は農業メインで学ぶ機会がほぼ無く、さらに不出来な頭が祟り、卒業する頃には手続法などの公法すら十分に活用できるほどの知識は抜け落ち、毎年買わされた六法も埃を被っているような状態でした。それでも学生生活を通してただ漠然と地域のために貢献するなら生まれ育った土地が良いと考え、Uターン就職を目指しました。そして再び福島に戻ってこうしたご縁を頂けたことに感謝致します。

さて現在の仕事について、私は農村振興部農地管理課にて主に換地に

関わる業務をしております。換地という仕事は専門用語が多く、よく分からない単語ばかりで一つの資料を読むにも一苦労です。会議に参加したときも何の話をしているのかほとんど分からないといったこともしばしばありました。改良区や県の方とお話しさせていただくときも自分一人では空回りするだけで何もできない申し訳なさを感じております。農地管理課には見本となる先輩方がたくさんおり、そういった方々を目標として仕事に努め、将来的には換地士の資格を取得して換地士として一人前に業務をこなしていけるようになります。

入会以前はほ場整備事業についてざっくりとした概要しか認識しておりませんでした。実際に入って業務に携わってみると業務の幅の広さと奥深さに若干の戸惑いはありますが、今の自分にできることは一つずつ精一杯尽力することだと思っております。まだまだ未熟ではありますが、任された仕事に責任を持ち、少しでも早く即戦力となるように努力いたしますので、皆様には今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

よろしくお願ひいたします。

梁川町土地改良区

佐藤 宏行

令和4年4月から梁川町土地改良区に勤務している佐藤宏行と申します。前職は伊達市役所建設部で定年を迎え、その後、土地改良区でお世話になっております。

当土地改良区は伊達市梁川町にあり、福島県中通り東北端に位置し、東北部は宮城県丸森町、西部は桑折町と国見町、東南部は福島市に隣接し阿武隈川支流に拓けた水田は、広瀬川より取水している砂子堰頭首工を主に、塩野川、山舟生川、伝樋川及び各ため池の受益となっております。

当区は、砂子堰をはじめとする頭首工や幹線水路並びにため池等を管理していますが、施設の多くが老朽化が進んでおり、受益者の負担は大きく、組合員一丸となった適正な維持管理が求められます。

さて、梁川町土地改良区に入職は、令和元年10月の台風19号で被災した梁川町土地改良区の施設復旧の一助になればと、同年11月より県職

員農業土木OBの方々と共に農業用施設災害復旧事業の調査業務（公共災15箇所）にたずさわりました。

災害査定前の現地調査では、河川内での調査が多く極寒で手が凍えデジカメのシャッターも押せないくらいで、橋理事長（当時会計理事）も災害班長として現場調査に入り、頭首工被災調査時には、川の流れに「足がドボン！」と水没するエピソードもあり大変な調査でした。その後、令和4年4月1日より土地改良区事務局長として勤務する事になりました。

なお、令和4年3月で災害復旧事業が終了いたしました。事業実施に際しまして、福島県土地改良事業団体連合会様の温かいご支援と厚意に支えられ、全て完了できましたことに心より感謝申し上げます。

皆様、ご承知のとおり農業・農村を取巻く環境は、非常に厳しい状況下であり、農産物価格の低迷、新型コロナウイルス禍による米価下落など、特に当土地改良区管内は、担い手の減少や高齢化・耕作放棄地の増加など大変厳しい状況にあります。昭和50年2月に設立された歴史あるこの土地改良区の将来に向けて福島県土地改良事業団体連合会並びに行政関係

機関と連携して、今後とも、適正な維持管理のもと健全な土地改良区の運営に努めてまいりますとともに組合員から必要とされる土地改良区を目指してまいりますので、皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

「土地改良区の職員となつて」

会津若松市湊土地改良区

渡部恵美子
わたなべ えみこ

令和3年5月より会津若松市湊土地改良区で勤務しております渡部と申します。

今回、令和4年12月に筆をとっている次第ですが、改良区職員となつてから早いもので約1年半が経ちました。この1年半の時間を改めて思い返してみましたが、本当にあつという間で、時が過ぎる速さを改めて実感しております。

今、総務・会計・事務を主にした職務に就いておりますが、1年半の時が経過しても組合員の皆様方からの問い合わせなどで初めて聞く言葉や、会計業務でも初めて行う処理が出てくることに今更ながら日々勉強の毎日で、土地改良区の役割や仕事

の奥深さを痛感しております。

私が職務に就いてまず一番頭を悩ませたのが、当土地改良区管内の現状の把握です。当土地改良区管内の地名や位置図、改良区管理施設の把握はもちろん、組合員の方のお名前やお顔、住んでいる地域、はたまた所有している田畑の位置や状況、管理者・耕作者までも、上司・先輩職員の方々は何を聞かれてもスラスラと答えていらつしやることに驚きました。それだけ地元の組合員の方々と土地改良区の関係が密接であり、様々な相談を受けるということは、皆様から多くの信頼を寄せられているのだなと感じております。まだまだわからない事ばかりではありますが、私も一日も早くその一端を担えるように邁進していきたいと思っています。

また、私は当土地改良区に採用される以前は農業に関係のない仕事をしておりました。会計事務に関しても未経験に近く、ちょうど私が採用された時期は、土地改良区の会計も単式簿記から複式簿記への移行期でありました。そのため、複式簿記に関する会計業務も全く分からず手探りの状態ではありました。しかし、上司の方や近隣の土地改良区の会計の方にもご教授いただき一つ

一つ業務を覚え、一步一步ではありますが進めております。まだまだ戦力になるには程遠いですが、水士里ネット福島主体でおこなつてくださる様々な研修を受けながら、学んだ知識を自分の力になるよう積み重ね精進して業務に努めていきたいと思っています。

最後になりましたが、これまで日々の業務をやさしくご指導いただいた上司、先輩職員の方々本当にありがとうございます。まだまだ未熟者であり、これから先も色々な壁に直面することもあると思いますが、教えていただいたことを振り返りながら業務に努めていきたいと思えます。今後とも組合員の皆様や役員の方々、水士里ネット福島職員の皆様、ご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願ひいたします。

よろしくお願ひします

磐城小川江筋土地改良区

長瀬麻裕香
ながせ まゆか

令和4年4月より磐城小川江筋土地改良区にお世話になつております、長瀬と申します。

時間の流れとは早いもので、気付けばいつの間にか勤めてから8か月が経ちました。はじめはわからないことだらけで、毎日緊張して過ごしていたけれど、明るく優しい先輩方に恵まれ、ひとつひとつ丁寧にかわたりやすく指導していただき、職場全体が明るく、とても充実した毎日を送らせていただいております。

私は学生までは、農業とは無縁の環境で過ごしてきました。住宅街で田んぼも近くにはなく、小学校の授業で田植えをしたことがあるくらいでした。商業高校に入学し、簿記を学んだことで事務職を希望して、初めて勤めたところが農協でした。そこで磐城小川江筋土地改良区を知りました。窓口で賦課金の取扱いをさせていただいております。

そのうち農家に嫁いだことで農業が身近なものとなり、私自身は田植えの時期に少しお手伝いする程度ですが、お米を作る大変さ、おいしいお米が食べられることのすばらしさを日々感じております。そんな中、縁あって当土地改良区にお世話になることとなりました。お米を作るための水が、今までは当たり前になた流れで流れているものと過ごしていたけれど、たくさんの人の手によって

流れてきていることを土地改良区に勤めてから知りました。

私の自宅は田んぼに囲まれている、周りに建物が少ないこともあって、二階から広い範囲の田園風景を見ることができます。田んぼの一面緑の絨毯のような景色も好きですが、田植え前の景色が特に好きです。水の入った田んぼがまるで湖のように見え、水面に反射する夕日や月の光がとてもきれいで子どもたちと私のお気に入りの風景です。この景色をこれから先も見続けられるように、私も土地改良区の一員として、今後も周りの皆様へ感謝の気持ちを持ち、自分なりに精一杯勤めていきたいと思っています。

よろしくお願い致します

水土里ネット福島

伊藤 健助

皆様はじめまして。令和4年4月より、福島県土地改良事業団体連合会の職員となりました伊藤健助と申します。出身は会津若松市で、大学では経済学について学び、前職ではインフラ業界で営業職をしていまし

た。これまで農業との関わりは薄かったため、分からないことが多い、勉強の日々です。

現在は主に多面的機能支払交付金推進業務を行っております。まずは制度について理解することから始まり、先輩職員の方々にご教授いただきながら、県内の1300を超える活動組織が作成する活動計画書の確認作業を行いました。はじめは事務的にこなすことに精一杯で、制度的にこなすことについてピンときていませんでした。しかし業務に携わるにつれ、この制度が活動組織の方が行う農村環境の保全活動を支援し、活動を通じて地域コミュニティを活性化させるといった、農業農村の振興に重要な役割を果たしていることを知りました。また、説明会などで活動組織の方と直接会って話す機会が増え、この制度のおかげで助かっているといった声をお聞きし、自分の行う業務が、間接的にも生まれ育った福島県の農業農村の活性化に繋がっていると感じ、このような仕事に携わることができて光栄だと思いました。一方で、活動の妨げとなっている課題もあると感じており、事務の煩雑化や、人員不足や農地集積による共同活動の負担の偏りなどは解

決しなければならぬ問題だと考えます。

農業に関する知識も経験も少ない私ですが、自分にできることは何か考え、農業農村の発展のために微力ながらも尽力して参りたいと思います。先輩職員の方々はじめ会員の皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻をいただけますと幸いです。

最後に、私にとって嬉しかったニュースをひとつ。先日、娘が誕生し父親になりました。コロナ禍で産に立ち会えず、ただただ心配で堪りませんでした。が、「母子共に健康です」と、病院から伝えられた瞬間は、本会から届いた採用通知書を拝見した瞬間、また、サッカーW杯日本代表がドイツ・スペイン代表に逆転勝利した瞬間と同様に心嬉しく、飛び跳ねて喜びました。新たな家族を迎え、より身の引き締まる思いで、精一杯業務に励んで参りたいと思いますので、皆様どうぞよろしくお願い致します。

「志は下流から上流へ向かって」

安積疏水土地改良区

渡邊 裕也

新年あけましておめでとうございます。令和4年4月より安積疏水土地改良区に勤務しております渡邊裕也と申します。よろしくお願ひします。

大学を卒業し、土地改良区に勤務し始めてから早8か月が経ちました。もう新しい年がやってきたのかと、時の流れる早さには驚かされますが、こうして「無事」新年を迎えることができたことをとてもうれしく思います。

「無事」というのも、令和2年は厄年のなか就職活動をし、令和3年は後厄、そんななかで社会人を初めて経験するというのは、なんとも言えない不安がありました。

厄年は意外にも何事もなく、むしろ安積疏水土地改良区とのご縁もあり、就職を決められたことはとても幸せなことでした。ところが、いざ勤務し始めると、父親の交通事故に始まり、流行り病である新型コロナウイルスにかかり、私まで交通事故

の被害にあう始末で、後厄の本領が発揮された年になりました。幸い事故によるケガもなく、誰かを傷つけることもなかったのは、不幸中の幸いでした。

そんな後厄らしい1年目を過ごしている私ですが、出身も育ちも郡山市であり、実家は農家をしていいます。大学進学までは、こんな何もない地元なんて出て都会で過ごしたいと思っていました。しかし、東京で大学生活を過ごすうちに、実家のお米のおいしさや、落ち着いて過ごせる過ごしやすさにありがたみを感じ、地元に貢献できる仕事に就きたいと思うようになり、それが安積疏水土地改良区を受けたきっかけでもあります。

勤務する前、私が想像していた仕事内容は水路の管理であり、門の開け閉めや、水路やその周りの清掃などでした。実際、水利課ではそのような仕事内容がありますが、私が配属されたのは財政課であったため、初めて知る仕事内容に想像とは違う学びの日々を過ごしています。初めての経験ばかりで右も左も分からない私でしたが、諸先輩方に一からご指導をいただき、少しずつではありますができる仕事が増えてきま

した。丁寧なサポートとアドバイスをいただける度に、私にも今後先輩が出来た時、諸先輩方のようなふるまいができるよう、知識と経験を蓄える努力をしなければいけないという気持ちにさせられます。

諸先輩方のように成長出来るよう、分からない事は随時確認すること。間違えてしまった事は何が原因で間違えたのか明確にし、今後の改善点を考え実行していくこと。上昇志向で日々精進することをこの場をかりて宣言させていただくことで、気を引き締め、しっかりと実行していくと思います。

後厄の話もありましたが人生山あり谷あり、悪い時間というのは今後必ず来ると思います。そんな時でも良い時間にする努力をしたいですし、人生においてその努力をする場を与えてくれた安積疏水土地改良区さんには、感謝の気持ちを忘れず、貢献していけるよう努めていきたいと思っています。

日進月歩

安積疏水土地改良区

佐藤 史乃

新年あけましておめでとうございます。令和4年4月より安積疏水土地改良区に入職いたしました佐藤史乃と申します。3月に大学を卒業し、新しい環境にも慣れてきた社会人1年目です。

この3年、新型コロナウイルスの影響で大きく変わった日常は、大学生だった私たちの生活も大きく変化させました。その影響は授業のみならず、就職活動にも及びました。新しい就職活動の形はオンラインが主流になり、リクルートスーツを着て駆け回る、イメージしていた就職活動とは異なるものでした。それでも、就職という人生の分岐点で本区に巡り合いました。

社会人として歩み始め、多くのことに触れたこの8か月は、初めての連続でした。

そんな「初めて」の中で、通水140周年という大きな式典を1年目で経験できたことは安積疏水の歴史と伝統を、身をもって体感するのと

も大きな機会になりました。また、当時の資料に触れる機会も多く、実際に見て、聞いて、触れた時間は、自分にとって貴重なものになりました。

小学生を相手にした施設見学を通して、一つ大きく変わったことがあります。それは自分の住む街の印象です。これまで、郡山市には何があるかと聞かれたときに、会津の鶴ヶ城や白虎隊、白河の小峰城や白河だるま、須賀川のウルトラマンのように、目立って誇れるようなものがないと思っていました。それでも安積疏水の歴史を学ぶうちに、安積疏水こそ郡山が誇るべきものだと考えるようになりました。それと同時に、日本遺産であることも、世界かんがい施設遺産であることも、もっと多くの世代に認知していただくべきだと感じるようになりました。そのためにも、若い世代の人たちがこれまでの安積疏水の歴史や伝統を守りつつ、新たな魅力も発信していく必要があると考えます。その一人に私もなれるよう、郡山には何もない、そう思っていた過去の自分と重ね合わせ、郡山市の礎を築いた安積疏水を、名だけではなく、だれもが周知し、発信者となるそんな未来を想像し、創造していきたいです。

一方で、初めて〃は誰もが不安で、分からない、知らない、ということにコンプレックスさえ覚えるものです。それでもひとつひとつ丁寧に指導いただき、分からない、知らない、ということは悪いことばかりではないと思えるようになりました。その多く差し伸べられた手を放すまいと、自分なりに吸収してきたつもりです。その中で、一度で習得できないもどかしさと不甲斐なさに情けなくなることもあります、少しでも早く本区の一員として認めていただけるよう真一文字で打ち込んでいく所存です。また、社会人2年目はもう一步踏み込んで、物事を自分の中で腑に落としてから実行できる人間を目指していきます。

最後に、まだまだ至らない点があると存じますが、これからよろしく願っています。

よろしくお願い致します。

会津宮川土地改良区

秋山 果穂

皆さん、はじめまして。私は、令和4年4月から会津宮川土地改良区

にて勤務しております秋山と申します。会員の皆様にはこれからなにかとお世話になると思いますが、よろしくお願い致します。新会員ということで、自己紹介をさせていただきます。

私は、当土地改良区のある会津美里町で生まれ育ちました。年齢は、現在25歳です。高校卒業後は、医療系の専門学校へ進学し、約5年間医療事務員として窓口業務や病棟クラークを経験いたしました。5年間のうちの半分以上はコロナウィルスの流行により、制限された生活を余儀なくされ、大変な思いも多くありましたが、医療現場で働いていたからその充実感もたくさん感じられました。今振り返れば、将来に役立ついい経験だったと思います。

現在は、まったく畑違いの場所です。仕事をさせていただいており、当改良区に採用していただくまでは、農業とは全く無縁の生活だったので、「土地改良区」「賦課金」「決済金」など、まず言葉を感じることに必死でした。このような状態でスタートし、初歩的なことも分からないのに関わらず、上司や、先輩方は、やさしく丁寧に教えてくださり、今では少しずつではありますが、業務の

流れや役割を理解し、任される仕事も増えてきました。改良区での私の業務内容は、会計事務や賦課金徴収が主な役割です。入職して8か月が経ちましたが、まだまだ覚えることがたくさんあり、毎日が勉強です。

先日、水土里ネット職員研修会に参加させていただきました。そこでは、機能保全計画についてや、複式簿記について学びました。私は知識がまだ浅いので、とても興味深く今後に大いに役立つ研修会だと感じました。

また、他の土地改良区の方や、関係機関の方々とお話する機会は初めてだったので、ご挨拶ができ大変貴重な経験をさせていただいたと思います。今後も、これを機に情報交換などが増えればいいと思います。

今年度ももう終盤になります。今後はこれまで経験できなかったことや、研修会にも積極的に参加できたいと思います。経験も知識もまだまだ少なく未熟者の私ですが、皆様のお力をお借りしながら、日々成長できたいと思いますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

皆様初めまして

会津宮川土地改良区

邊見 知弘

会員の皆様初めまして、令和4年4月に会津宮川土地改良区で採用されました邊見知弘と申します。これから皆様には何かとお世話になると思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

私の出身は会津美里町で自然豊なところなんです。家が農家という事もあり、小さい頃より田んぼに親しみを覚え育ってきました。前職は農協の営農課で11年間勤務しており、農業の事について大体わかっていると思いましたが、実際に働いてみると同じ業界に思っても畑違いだと感じました。

まず、仕事内容についてです。当改良区に勤めて、早いもので8ヶ月が過ぎます。私は新宮川ダムで管理業務を行っており、毎日の自動記録装置・気象情報等のデータ整理や、施設敷地内の整理・清掃が基本となっています。また、週に1回の定期点検や月に1回の電気点検、設備等の点検業務も行わなくてはなりません。

せん。他にも覚える事がたくさんあります。最初は何かからず上司に何度も聞き、やっと覚えるので精一杯でした。今では毎日の業務や定期点検は覚えましたが、その他の業務はまだ覚えられていません。

私は1回で覚える事ができないため、上司に何回も聞いて迷惑をかけるかもしれません。

日々の業務を行いながら、事務処理や機械操作等を1つ1つしっかりと覚え、早く当改良区の戦力になりたいと思います。

次に、コミュニケーションについてです。私は人と話すのが得意ではありません。それが原因かはわかりませんが、未だに32歳独身です。勤務日は上司と2人で新宮川ダムに車で向います。その車内では上司が話しかけてくれるので、大変助かっています。上司は話すのが上手なので、私もこんな風に話せたらいいなと思う時があります。新宮川ダムは、県職員1名、当改良区2名の3名体制です。県職員の方も話しやすく、とても良い職場環境です。新宮川ダム勤務で、水路に水を流す作業等を行わないため、組合員の皆様とは接する機会がありません。苦手なことを克服しようとしても、現在は

難しい環境にあります。

今後は、自ら話題を出して、上司や関係者と話せるようになりたいです。また、異動して組合員の皆様にお世話になる機会があれば、頼られる改良区職員になりたいと思います。

最後になりますが、1日でも早く当改良区や組合員の皆様の役に立てるよう一生懸命頑張りますので、ご指導の程よろしくお願い致します。

よろしくお願いいたします

会津宮川土地改良区

あぐなわゆうたろう
芥川祐太郎

今年度の4月より会津宮川土地改良区にて事業課管理係で働かせていただいております芥川祐太郎と申します。福島県喜多方市の出身です。社会人としても人間的にもまだまだ未熟者ではありますが何卒よろしくお願いいたします。

私は当土地改良区に採用される以前は関東地方にてマンホールの蓋等鑄鉄製品の製造販売メーカーで営業職として業務に励んでおりました。官公庁へ製品販売に訪問する機会が多く下水道はもとより農業用水の施

設管理用鉄蓋の販売も行っており、8年間自社の業績のために積極的に業務に励むなかで良きお客様、上司や先輩、後輩、同僚に出会い成長させていただきました。

当土地改良区に入職するまで、私は農業とは無縁で土地改良区という名前も業務内容も知りませんでした。河川の水を使用するために許可がいることも恥ずかしながら知りませんでした。

また、地元が福島県喜多方市であること、地元での社会人経験がないこともあり、会津宮川地区（会津美里町・会津坂下町）の土地勘もなく、地区の名前すらもわからない状態でしたので不安も多くなりました。

しかし、ご縁をいただき防災ダムや用排水施設の管理業務に従事する日々のなかで無知な私に丁寧な指導してくださる上司や先輩方に出会い、日々勉強させていただき、前職のわずかな社会人経験の中でわかつたつもりになっていた基本的なこと（上司への報告、連絡、相談や事業所内でのコミュニケーション等）を再確認し、刺激のある充実した毎日をご過ごしております。（余談ですが、管理施設でマンホール蓋を開閉する機会もあり前職とのつながりを勝手に

に感じております。）

土地改良区の業務は農家の方々から農業で生産活動をする上で欠かせない用排水施設の維持管理や農地の区画整理などその役割は多く重要な役割を果たしていることを知りました。日々の業務のなかで、組合員の方々や施設の点検や工事の業者の方々からの問い合わせや、皆様からの要望に自信を持って応対するには上司や先輩方のような知識と経験が圧倒的に足りませんので、今後も積極的に業務に励み知識や経験を蓄積していきたいと思っています。

前述のように、前職では自社の業績のために業務に励んできました。これからは前職以上の気持ちで組合員の皆様のためになるよう全力で業務に励んでいきたいと思っています。皆様今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

「元気に頑張ります」

水士里ネット福島

とがし
富樫さくら

はじめまして。令和4年4月よりお世話になっております、富樫さくら

らと申します。

高卒で社会人の仲間入りとなり、何もわからずに不安ばかりだった私を優しく迎え入れてくださった農村整備課の皆さんにはとても感謝しています。

私は農業高校土木科出身であり、高校時代は施工や測量、設計について学び、その中でトータルステーションを使った縦横断面測量や、学校内の側溝に擁壁を作成して取り付けるなど様々な実習を行っていました。土地改良事業団体連合会があることを知ったのは進路を考え始めた時期で、どんなことをしているとこのなかに興味を持ち、見学などに参加させていただきました。

配属されました農村整備課につきましては、土地改良事業における農業農村整備の調査・計画・設計業務を行っており、なかでも「ほ場整備事業」に関する業務を主に行っています。

今まで聞いたことのない言葉ばかりが飛び交い、少し焦ってしまいうような時もありましたが、新しく得る知識も多いため日々成長の毎日です。今、現在私が行っている業務は、設計に必要な土壌タイプや地耐力の調査を実際に現場で行ったり、構想

図作成や現地調査の取りまとめを主に行っています。業務を行っていく中で難しい専門用語等は、すぐに先輩や上司に聞くことで、効率的に仕事をこなすことができるようになってきました。しかし、わからないのが当たり前と思うのではなく、何事にも興味をもち、自分から進んで知識を身につけたいです。

まだ1年目ということで、先輩や上司からお願いされた業務が多いですが、2年目からは、自分で計画を立て、正確にこなしていきたいです。

最後になりますが、まだまだ未熟者で皆様にはご迷惑をおかけすることもあると思いますが、「明るく元気に」をモットーに頑張っていきたいので、これからもどうぞよろしく願います。

よろしく願います

水士里ネット福島
鈴木友理子

令和4年4月より、福島県土地改良事業団体連合会にて、お世話になっております鈴木友理子と申します。

どうぞよろしく願います。

4月に農村振興部農地管理課の配属となり、早8ヶ月が過ぎました。振り返ると、様々なことがありましたが、中でも一番の大きな出来事は、CADソフトを使用した測量業務と換地業務に携わらせていただいていることです。

私の前職は、予算の執行管理や広報誌作成業務等に携わる事務職であり、CAD操作による測量図面作成業務や換地業務は全くの未経験でした。そのため、最初は換地業務として、上司や先輩方から登記事項要約書のチェックの仕方や戸籍用務に係る資料作成等を丁寧に教えていただきました。併せて、換地計画作成研修会にも参加させていただきました。換地への理解を深めました。その後、測量業務に長年従事され、CAD操作等に精通されている先輩職員の方々に、実際のCADの画面を見せていただきながら、操作方法や測量図面の作成等について教えていただきました。初めて見るCAD画面は、あまりのボタンの多さに衝撃を受けました。

換地業務も測量業務も初めて聞く言葉が多く、当初は一つ一つ教えていただきながらメモを取るだけで精

一杯でした。自分は業務についているのか大きな不安がありました。質問や相談がしやすい職場の雰囲気や、部署を超えて話しかけてくださる先輩方のおかげで、とても励みになりました。心より感謝申し上げます。

現在では、教えていただいたことをもとに、先輩職員方にご助言をいただきながらも確定測量図や現場点検図等の測量図面を自分で作成できるようなりました。見落とし等のミスが多く猛省しておりますが、先輩が専門用語を平易な言葉に置き換えて説明してくださったり、分からない部分は作業ペースを落として一緒に考えてくださったりと、温かいご指導をいただいた賜物であり、先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。

今後は、より一層実務経験を積み、図面を正確・迅速に仕上げるスキルを身に付けられるよう努力し続けるとともに、業務全体の進捗状況を確認しながら、臨機応変に仕事を進めておられる先輩方を見習い、日々精進してまいります。

まだまだ至らない点も多く、ご迷惑をお掛けしておりますが、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「資格の話し」

伊達西根堰土地改良区

石 川 博 利

会員の皆様には、新しい年を健やかに迎えられたと思います。一方、今の状況は制限が多くあるため、楽しみはやや控えめで、ご苦労も多いこととご推察いたします。

このような中にあっても、土地改良事業に関わる職員として、日々業務に携わり、農業農村整備、農家の支援等に邁進していることと思います。

皆様は、日々の業務を行うために、必要な資格やスキルアップのための知識としての資格等を取得していることと思います。

現場作業や業務に欠かせない資格として、運転免許があります。運転免許は度重なる法律の改正のため、種類が多様になっています。私が免許取得した当時は、自動車であれば、大型・普通免許でした。現在は、大型・中型・準中型・普通免許、更に準中型・普通免許には、AT（オートマ）限定まであります。

当土地改良区には、業務のため、乗用車の他に軽トラックと2 t ダンプトラックがありますが、免許取得時期により免許の種類に注意が必要です。軽トラック・ダンプトラックはマニュアル車のため、AT 限定の場合、条件違反になります。また、2 t ダンプトラックは、最大積載量2.0 t、車両総重量4.9 t のため、直近に免許取得した場合は、準中型の免許が必要ですが、平成29年3月11日以前に普通免許を取得した場合は、最大積載量3 t 未満、車両総重量5 t 未満となり運転が可能です。また、普通免許を平成19年6月1日までに取得した場合は、最大積載量5 t 未満、車両総重量8 t 未満まで運転可能です。

皆様も、もう一度免許を確認すると、普通免許がいつの間にか、中型になり「中型車は中型車（8 t）に限る」になっていませんか。参考に、この免許の方は、1989年以前に生まれた方ということになります。

次に、農家にとって必需品のトラクターに関する免許です。農業機械の運転には、小型・大型特殊免許が必要です。普通免許を取得すると、小型特殊は運転可能ですが、「全長4.7m以下、幅1.7m以下、高さ2.0m以下、最高速度15km/h 以下の条件を全て満たしたもの」が小型特殊です。

代掻き用のドライブハローは1.7m以上を使用している農家が多く、最近の法改正により、多数の農家の方が大型特殊（農耕車限定）を取得のため、免許試験場に受験に向かい順番待ちになった程です。この改正は、「規制が厳しくなった」のかと思ったら、実は規制緩和によるものです。これまでは、「作業機付きの走行」は認められていませんでしたが、実際は黙認されていたため、「作業機付きの走行」を認める、との規制緩和を行った結果、作業機を付けた状態で車幅が1.7mを超すと、「大型特殊自動車」に区分され、大型特殊免許が必要になり、いままで公道を走っていた農家にとって「規制緩和により締め付けが強まる」結果になったのです。なお、機械メーカーもドライブハローの左右を折りたためる機械により、巾を規制内とした対応もされています。

土地連職員の皆様の、測量・設計・管理等に関わる資格の種類の多さは驚く程です。土地改良区運営にも、ダム管理には「ダム管理者主任技術者」が必須、電気関係の資格や、直営工事には、「車両系建設機械」の操縦資格等、また専門的資格を取得し、日々業務に活かしている方も多いことと思います。趣味の資格も多様と思います。

蛇足的な話しでしたが、大事な資格が無くならないよう今一度ご確認いただく参考となれば幸いです。また、興味をもって資格取得に望んでは如何でしょうか。

SNSを活用した情報発信について

愛谷堰土地改良区

事務局長 菅 波 孝 光

当改良区は、ホームページを2000年7月に（自力）開設し、広く情報公開に努めて参りましたが、2022年8月に全面的に更新しました。更新のきっかけは、Google サイトでいけると判断したことです。自力で編集しなければなりません、プロバイダーも不要ですし、カスタムドメインを使用しても、その使用料のみ年額1,400円でホームページを開設することができます。当然、タブレットやスマホ対応版となります。

ホームページを開設することは企業として必然的な時代ですが、一般人が土地改良関連情報をホームページから得る時代は過ぎたように感じます。

それぞれのアプリから必要な情報が得られますし、詳細な情報まで必要としない社会情勢が存在します。世の中、インターネットの中に情報が溢れています。

当区のSNSとしては、Twitter、Facebook、Instagram、YouTube、TikTok など試験なものも含め運用しております。

SNSの中で、土地改良区として、是非、整備しておく必要があると感じるものは、①迅速な情報発信とその情報が速やかに拡散できるものと、②詳細な動画発信。ですが、残念ながら、その両方が対応できるSNSは今のところ存在しません。まず、

① 迅速な情報発信とその情報が速やかに拡散できるもの

洪水時、土地改良施設の許容範囲を越えた場合、用水路は溢れ、排水機場は周辺宅地も含め冠水、水没。頭首工は放流ゲート全開、ダムは常用洪水吐から越水しますが、被災を心配される方は不安で色々な情報を収集します。その時に、土地改良施設管理者が現況や見通し、今後の対応などを迅速に発信しておくことが不可欠です。

適正管理下で水害が発生していることを広く証明するには遅滞ない情報発信しかありません。

前もって、開設しておき、施設管理者の公式アカウントであり、信頼のおける公式発表であることを周知する必要があります。

現在のアプリでは、Twitter が情報発信と拡散に優れていると思います。

② 詳細な動画発信

ホームページを利用して、写真で、施設や土地改良事業、イベントなどを公開して参りましたが、動画で発信することの効力は火を見るより明らかです。

当区は、YouTube を使用しておりますが、例えば、頭首工の年次点検でパイピング発生の有無を調査した動画では、護床ブロックの間を丁寧に点検している動画も含まれております。また、小学4年生を対象とした施設巡りバスツアーでは、子供たちが熱心に土地改良施設を見学、勉強している様子がわかります。

印象に残るものは、写真よりも動くもの聞こえるものだと思います。

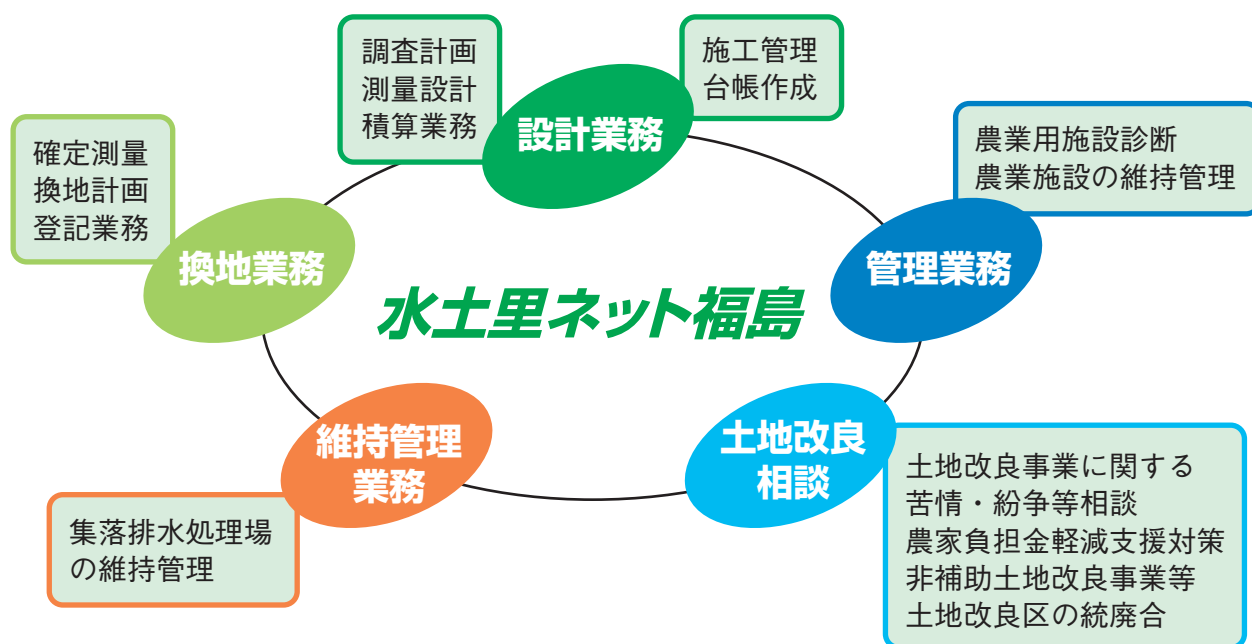
ホームページにリンクを貼り付けるとホームページの奥行きが広がります。

最後に、私は、近い将来、現在のSNSより使い勝手がよく、多くのユーザーを抱えるものが出てくると思っています。バーチャルと現実社会が混在するものが出てくることを勝手に期待しております。

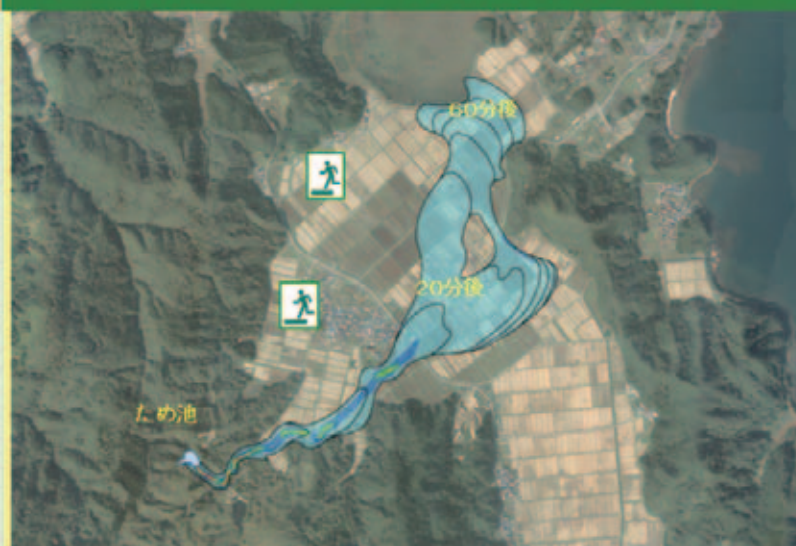
表紙写真 「ふくしま むらの輝き2021」写真コンテスト
「収穫のよろこび」 佐藤 由弘 さん

水土里ネット福島は、水土里を未来につなぐ農業農村整備に取り組んでいます。

水土里ネット福島は、会員並びに地域社会の要請に応じた、新たな業務及び支援に向けて各種の取り組みを展開しながら、活力ある農業・農村づくりのお手伝いをしております。



水土里情報システム(GIS)を活用した、ため池ハザードマップ作成への支援



本会が所有する【水土里情報システム】と【簡易氾濫解析ソフト】を使用して、ため池が決壊した場合の浸水想定区域図が作成できます。



福島県土地改良事業団体連合会

〒960-8502

福島市南中央三丁目36番地

TEL 024-535-0371

FAX 024-535-1200

<https://www.midorinet-fukushima.jp>